

【報告】 市町連 自治活動 視察研修

2013.6.26

自衛隊活動を研修

6月26日、町内会長など34名が「地域防災・地域支援における自衛隊活動など」を学習するため、陸上自衛隊北恵庭駐屯地と航空自衛隊千歳基地へ視察研修しました。

北恵庭駐屯地では、石橋駐屯地司令から「地元自衛隊として、地域住民として、それぞれ



の町内会に受け入れをいただき感謝しています」と挨拶をいただきました。「日頃の訓練の応用が災害派遣に繋がっている」ことや「24時間態勢で常に災害派遣の初動態勢を確保している」などの講話のあと、災害救助などで使用する防災資器材や車両などの見学をしました。

千歳基地では、救難活動や災害派遣活動における航空自衛隊の活動実態を学習したあと、実際に使用するヘリコプターや航空機を見学しました。

今回の視察の成果を町内会の防災計画や防災活動に活かしていくことが大切です。

恵庭市町内会連合会の役員紹介

市町連は、町内会・自治会活動に必要な情報の提供や調査研究をおこない、明るく住みよいまちづくりを推進するため事業を展開しています。

この広報誌をとおして、市民の皆さんに市町連の活動や町内会・自治会を紹介し、町内会活動に興味をもっていただき、参加していただけるよう情報をお伝えしていきます。

■本年度の役員

会長	小川晃平 (京町)	理事	宮崎光由 (中恵庭)
副会長	野原 聡 (大町)		中川一男 (福住町1丁目)
副会長	山形 孝 (恵み野東)		高橋利雄 (柏陽町西)
副会長	今井輝幸 (島松寿町)		松崎政和 (恵み野南)
副会長	安達正弘 (下島松北)		鏡 貢 (島松本町)
事務局長	坂上信之 (柏木)		山川政幸 (下島松南)
事務局次長	玉熊隆昭 (北柏木)	監査役	三浦 功 (有明町)
会計長	下原干城 (駒場町南)		堀山昭宏 (駒場町北)
			西口雅樹 (上山口)

■編集後記

- ◆市民の模範または参考になる事例をお届けいたします。市町連と市民を「つなぐ」広報誌のご一読を！（野）
- ◆地域で先進的な活動をされている方を紹介することは、会報誌「つなぐ」の新たな使命です（今）
- ◆8月の連日の暑さで、外へ出る機会も少なく運動不足で「メタボ」になる。要注意（俣）
- ◆市民の皆様へ町内会活動を紹介しますが、毎回、発行にむけて広報部会委員で協議し内容を決めています。（三）
- ◆地域の皆様方の御理解と御協力の上に、この広報誌が本来の役割を担っていると思います。（西）

募集！ 紙面で紹介したいユニークな活動をしている人。がんばる人の情報をお寄せください。

発行
恵庭市町内会連合会
広報部会
事務局
恵庭市役所
市民活動推進課内
(33-3131)

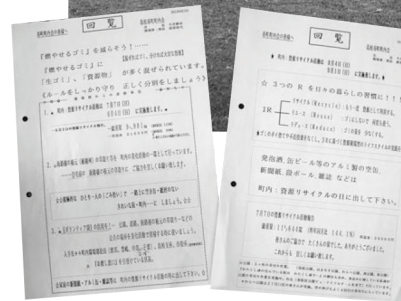
市町連活動記録

(2013.2.19 ~ 8.31)

- 2.19 町内会連合会総会・表彰式
- 4.18 市理事者と町内会長等との懇談会
- 5.7 恵庭市へ要望書提出
- 5.28 全道町内会連合会活動研究大会 (札幌市)
- 5.29 全道町内会連合会総会(札幌市)
- 6.4 町内会長等親睦交流会
- 6.26 自治活動視察研修(恵庭市、千歳市)
- 7.9 湧別町自治会連合会視察受け入れ
- 8.1 市理事者と市町連役員との懇談会
- 8.6 町内会活動実践者研修会(札幌市)

■役員会等の開催状況

四役会(4回)、役員会(2回)、
事業部会(1回)、広報部会(2回)



渡部 保代さん
島松寿町内会 環境部長

島松寿町町内会には、約650世帯の会員がいる。環境保全や防犯、福祉事業など地域活動が盛んで、今年創立50周年を迎える町内会だ。会員の一人、渡部保代さんは、定年退職をした10年前に区長となった。地元を知ること、地元で自分ができることは何かを考え町内会活動に参加したという。

そんな渡部さんのモットーは「自分の住むまちだから自分たちでできることはしたい」ということ。今年4月、仲間を集めAKBならぬKBT（寿街区公園ビューティフルチーム）を結成し、町内5つの街区公園の草刈りを始めた。市が行う草刈りは年3回。「もっとキレイに使いやすく、楽しみながら」と考え、3週に1度のペースで草刈りをしている。

また、毎月2回の広報誌の発行も欠かさない。会員の「こうした活動を通して地域に愛着がわき、仲間もできる」と渡部さん。理解と協力をもらいながら、今日も活動を続けている。

夜のまちを明るく照らす 市内防犯灯LED化



市内の約8200灯の防犯灯のうち、LED化されていない防犯灯の全てが今年度、LED化されます。

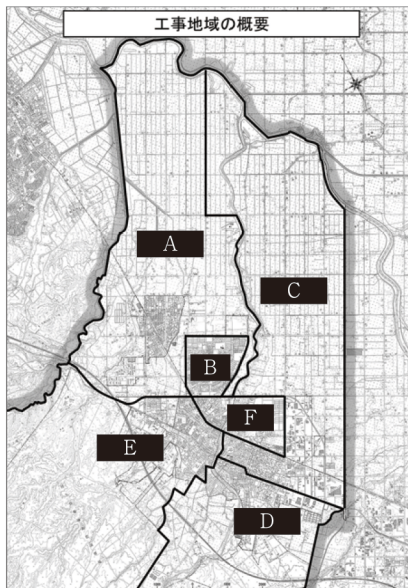
これまで、防犯灯が故障した際、独自にLED化を図っていた町内会があり、更新費用の軽減を市に求めてきました。

こうした要望や省エネルギーなどによる環境負荷への低減を促進するため、市は今年度、従来型の防犯灯7,321灯を地域別に順次更新し、来年3月末までに完了する計画です。

これにより環境への負荷が低減されることは勿論ですが、従来型よりも明るく夜道を照らし、これまでの電球型蛍光灯よりも6倍以上長持ちするなどのメリットがあります。

また、LED化を図るこの機会に市は「防犯灯の新設・廃灯、老朽化に伴う計画的更新については、地域の安全・安心な生活環境を創出する基礎的な設備である」として、電気料金を含めたこうした費用は市の責任において実施する旨を町内会に提案されました。

LED化の工事は、市内を6つの地域に分け、駅や学校など人が多く集まるエリアから設置を進めることとしており、6月から順次工事が始まっています。



地域別の防犯灯 (H25.3月現在の数)

地域	LED化される数	工事開始(予定)
A 島松・島松農村地区	1396灯	H25. 8月～
B 恵み野地区	1178灯	H25. 8月～
C 東恵庭地区・恵庭地区 (漁川南側、道道東側)	1203灯	H25. 6月～
D 恵庭地区 (漁川南側、道道西側)	1192灯	H25. 10月～
E 恵庭地区 (漁川北側、JR西側)	1298灯	H25. 10月～
F 恵庭地区 (黄金、中島地区)	1054灯	H25. 7月～
現在の総数 (内LED防犯灯865灯)	8,186灯 7321灯	

恵庭の「道と川の駅」は、店内に入りきれないほどの人気です。それは歴史的に見てもうなずけることがたくさんあります。よその町では「川の駅」という名前が入っているのはあまり目にしません。実はこの「川の駅」には恵庭の場合ただ漁川沿いに面しているだけの理由ではないようです。200年前にさかのぼりますと、この場所はアイヌ民族や松前藩の間で漁場争いがずっと続いていたほどの好漁場だったので、漁はアイヌ語で「イチャン」(サケに



産卵する川) から来ていますが、18世紀末の寛政期には漁川だけで三万尾以上もサケを出荷していたという好記録が残っています。



RELAY INTERVIEW

リレーインタビュー



会員の「和」と
「輪」を広げ
絆の強い地域に
したい

神田 美佐子さん
住吉町内会 会長

「顔がわかる関係を築きたい」。今年1月に住吉町内会の会長となった神田美佐子さん。現在、市内には62の町内会・自治会があるが、3人いる女性会長の一人が神田さんだ。

これまで20年以上の町内会活動を経験している。しかし「同じ町内でも、会員の顔や困りごとを把握するのは難しい」と神田会長は悩みをうちあける。そうした中、「会員の皆さんや区長をはじめ役員の声をしっかり聞き、地域の情報を共有する」ことを日々心掛けていると言う。

住吉町では、年間をとおしてたくさんの方々の行事を行っている。小さな子ども達から年配の方々まで参加する恒例行事がある。年末の餅つきでは高齢の方が子どもたちに餅のつき方や餅を丸くする方法を手とり足とり指導する。そして、みんなで一緒に食べ、楽

しい会話がうまれる。「幅広い世代が参加することで交流や絆が生まれるんです」。これからの活動目標は、防災意識の向上だと言う。住吉町では自主防災組織を結成し活動を積み重ねながら災害に備えた地域づくりを進めている。「そのためにも顔がわかる関係づくり、絆づくりはこれからも続けていきたいんです」。

